少年センターだより

令和元年１１月１６日
発　行
日野町少年センター
日野町河原一丁目１番地
TEL/FAX　0748-53-1325
http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c/

『だれでもが利用できる『居場所』としての図書館に」

日野町立図書館館長　高浪　郁子

日野町立図書館は一九九六年（平成八年）の開館以来二十三年が経ちました。

図書館は赤ちゃんからご高齢の方まであらゆる世代の方々の読書したい、学びたい気持ちに応えるためにある教育施設です。

所蔵する本についても、通常より活字を大きくした本や、点字つきの本、さわって楽しむ絵本、耳で聞く文学作品（CD）や字幕のついたDVDなど、いろいろなニーズに合わせたものも用意し、ご利用いただいています。また、図書館への来館が難しい方のために移動図書館サービスも始めています。現在は幼稚園や保育所のみの訪問ですが、いずれはもっと広げていきたいと考えています。

最近では、図書館はいろんな方々の「居場所」としての役割も期待されるようになってきました。

新聞や雑誌を読みに来館する方々、託児サービスの日に赤ちゃんを預けてしばし自分の時間を楽しむお母さんたち、友だちと一緒にパソコンコーナーで動画を見る子どもたちなど、いろいろな人たちに気軽に図書館を「居場所」として使ってもらっています。

また、中学生から大学生までの年代層の来館や図書館利用を促進するために、今年の夏休みには視聴覚室を開放し自由に使ってもらう取り組みを試行しました。限られた日数でしたので利用者は少なめでしたが、よい取り組みだと言ってくださる方もあり、今後も夏に限らず実施していきたいと考えています。

さらに今年十月から「ホッとスペースのびのび」という事業が図書館を会場に始まりました。これは町役場福祉保健課の主催で、学校に行きにくい子どもたちや、働きたくても働くことが難しい若者、その保護者の方たちを対象としています。会議室に用意したボードゲームを一緒に楽しみながら、参加者同士がコミュニケーションを図ること、また家の他に安心していられる「居場所」を見つけることを目的に実施しています。

これからもの本や会議室などの施設を、さまざまな工夫でより多くの町民の方々の「居場所」としてご活用いただけるよう、取り組んでいきます。

滋賀県子ども・若者育成支援強調月間

滋賀県では、１１月１日～３０日までの間を、「滋賀県子ども・若者育成支援強調月間」と定め、“たくましく 伸びよう 伸ばそう 湖国の子”を月間統一スローガンに、子ども・若者の社会的自立支援の促進や有害環境の浄化活動の啓発活動が行われています。

日野町少年センターでは、１１月１日（金）にフレンドマート日野店において、日野町少年補導委員会、東近江警察署、日野町青少年育成町民会議が協力し、重点取組事項の一つでもある青少年を犯罪や非行等から守るための取組の推進として、啓発グッズを配りながら声をかけ、万引き防止と青少年の健全育成のための啓発を行いました。買い物帰りのお客さんは啓発グッズを手に取ると「子どもたちが健やかに成長するためには、大人がどのように見守っていけるか、また、大人がどのように行動するかが大切ですね。」と話されていました。

少年補導功労者表彰を受賞

１０月５日（土）滋賀県立文化産業交流会館（米原市）で開催された「なくそう犯罪 滋賀安全なまちづくり県民大会」において、日野町少年補導委員の藤澤義晃さんが少年補導功労者として滋賀県警察本部長および滋賀県青少年補導員会連絡協議会長から表彰されました。

受賞された藤澤義晃さん

これは、長年にわたり積極的な地域活動を推進され、少年の非行防止と健全育成に尽力された功績が認められての表彰でした。受賞された藤澤さんは「日常のパトロールや啓発活動が認められてうれしいです。受賞を機会にこれからも頑張っていきたいです。」と話されていました。

つぶやき

残暑が厳しい９月のある日、子ども達の下校時にパトロールをしていると、必佐地区で小学生の女の子が鼻血を出して、道端で困っておられる所に遭遇しました。車を止めて話を聞いてみると、不安そうな表情の女の子は、鼻血を出したので一緒に帰ってきた友達が、先に走って家の人に連絡をしにいってくれたので一人で待っているとのこと。その後近くで子ども達の下校を見守っていただいていた見守り隊の方も駆けつけてくださり、その女の子の表情にも安堵感が出てきました。

登下校時には様々な事が起こります。今回は鼻血という体調の変化で子どもは不安そうにしていたのですが、そんな時、誰かが見守ってくれていると不安から解放されていくものだと思います。近くに地区の見守りの方がおられ、また連絡を受けたご家庭の方もすぐにかけつけてくださって、大変地域がつながっているのだなと感動しました。地域の子ども達を地域全体で見守っておられる事に喜びを感じました。

日野町少年補導委員　竹村　久子

薬物乱用はダメ。ゼッタイ。

少年補導委員が、氏郷まつり“楽市楽座”2019で薬物乱用防止を啓発

日野町少年補導委員会では、１０月２６日（土）「氏郷まつり“楽市楽座”２０１９」において、薬物乱用防止のための啓発と会場内パトロールを行いました。

当日会場ではゲームを楽しみながら危険な薬物を学んでもらおうと、薬物乱用防止クイズやシューティングゲームを行い、青少年を始めとする多くの皆さんに参加していただきました。

薬物を乱用すると大変な事になるんだね。

クイズに正解してゲームをするぞ！

ヤッター！
さあ、シューティングゲームだ！

今年は、少年補導委員と来場する青少年との会話を充実させようと、ゲームコーナーの前に薬物乱用防止パネルを掲示し、パネルを見ながら積極的に話しかけていきました。声をかけられると、恥ずかしそうにしながらも少年補導委員の話に耳を傾けてくれました。「この写真怖いな」「薬物でこんなんになるねんな」と話す人もいました。

僕、くまおだよ！
薬物乱用は、ダメだよ。

真心を込めて、作りました

少年補導委員会では、手作りの啓発しおりを作製し配布ました。しおりには、みんなで考えた標語や押し花をあしらっています。押し花の材料は春ごろから準備し、秋の氏郷まつりに合わせて作製しました。地道な活動ですが、薬物に手を染める人が出ない事を願っています。

１０月１日から１１月３０日まで

麻薬・覚醒剤乱用防止運動実施中

子育て小窓

みなさんは≪早生(わせ)・晩生(おくて)≫という言葉をご存じでしょうか？　植物の世界には早くに成長して実がなる≪早生≫と、ゆっくりと成長して実がなる≪晩生≫とがあります。一見すれば成長が早い方が良いかのように思えますが、ゆっくりと成長する植物は早く収穫したものよりも美味しい実がなることもあり、ゆっくり育つことにも意味があることを教えてくれます。

では、人の世界ではどうでしょう。やはり植物と同様に発達が早い子どももいれば、発達のひとつひとつをじっくりと吟味して歩んでいくため、ゆっくりと成長する子どももいます。人と植物、いずれにとっても大切なことは、≪早生も晩生も≫どちらの発達にも異なる良さがあるということです。

子育てをする私たちにとって、ゆっくり育つタイプの子どもと向き合っていくことは、時に焦りや苛立ちを生む要因にもなります。しかし、≪大器晩成≫という言葉があるように、じっくりと根差しながら成長していく子どもたちも多くいます。

比較や対比を優先するのでなく、子どもたちがどんな実を結ぶのかを楽しみにしながら見守り、待つことも大事なことではないでしょうか。

日野町子育て・教育相談センター　N

ひとりで悩まないでまずは相談を!

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

〇電話相談　〇面接相談

〇相談時間：月～金　9:00～16:30

日野町少年センター　（日野町勤労福祉会館　２階）
電　話　　０７４８－５３－１３２５
E-mail　hino.t-syonen.c@rmc.ne.jp